



2025ジェンダー平等ミーティング

ジェンダー平等ミーティング

令和6年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2025年1月16日(木) テーマ
「少子化とジェンダー」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS





少子化とジェンダーって関係あるの？ 今子をもつことはリスクでしかないって本当??

現役助産師の齊藤先生と考えました。

テーマ

少子化と ジェンダー



産むことをただ推奨する回ではもちろんありませんでしたが、

「自分らしい生き方」と「命のつながり」について、前向きに話し合うことができました。

*産まない・子をもたないこともひとつの選択肢であり生き方、そもそも子は授かりもの…との前提で話し合いを進めました

「少子化とジェンダー」

～産むことや、子どもを育てることが大切にされる社会のあり方とは～

講師：齊藤 智孝 さん（共同助産所「お産子の家」助産師）

- ・自分らしい生き方をと言われる時代。「稼いだお金を子どものことにとられたくない」と思う人もいる。
- ・一方で、産むこと、育てること、生きること・・・が尊重される社会でもやはりあってほしい。
- ・キーワードは、「愛しい」「尊い」そのように感じる“感性”ではないか。
- ・家族のあり方、子どもが置かれている環境が劇的に変わってきている。
- ・人の命は、その人ひとりだけのものではない、つながっている。でも、いろいろ複雑な事情などもあり、「命のつながり」「バトン」ということを伝える大人が減ってきた。

- 助産師をしていると、「どうしても救えない命」に出会うこともある。「祈るしかない時間」というのもある。生きてうまれてこられたことは、本当にすごいこと。奇跡。
- どんなときでも動いてくれている心臓など、体は本当によくできている。私たちは生かされている。そのことは、愛しくて尊い。
- 指が2本で生まれてくる赤ちゃん、グーの状態で生まれてくる赤ちゃん、6本で生まれてくる赤ちゃん、「異常」ではなくその人のかたち。みんなちがう。
- 体のことをよく知らずに体を大切にはできない。
- 「命の選定」ということもある。その人たち(親)も生きていかないといけない。簡単に「ともに生きて」とは言えない。

- 精子と卵子が出会ってから誕生まで、実は何ひとつ「本人」では決めていない。(生物学的な)性別も、精子と卵子が出会った瞬間に決まる。
- 生まれてから、体と心が合わなくなることもある。(だから)「一人ひとりが大事」「その人らしさ」「自分で決めていく」という価値が意味をもってくる。
- いわゆるバラマキ的な政策等では、少子化は改善しないのでは。
- 「愛しい」「尊い」「ともに育んでいく」・・・そういう感性が今一度大切にされれば、産もうと思う人が増えるかもしれない。



齊藤先生にお話しいただいたあと、感想や、「少子化とジェンダーは関係があるのか」「今子をもつことはやはりリスクでしかないのか」・・・についてみんなで交流しました。

- ・改めて、命の誕生は奇跡だと思った。
- ・直面するか分からないけど、今日のことは知れてよかった。
- ・健康への気づかいをもっとするべきだと思った。女性だけでなく、もちろん男性も。お互いが調整することが大事。
- ・4人に1人が流産の経験があると聞き驚いた。
- ・産んだ人のためになる政策があるとするれば、どんな政策か？
→ 産まれた子は社会みんなで育てる、支える。昔はそうだった。今は「ケガさせたらアンタの責任」「ケガさせちゃった・・・」子育てが“個”になってしまった。頼めない。政策も大事だが、最終的には「心のありよう」では。【齊藤先生】

- ・「産まないといけない」という流れ、最近はそれほどなく、多様性も広がり結婚しない人が増えた。少子化とジェンダーはやはり関係があるのでは。
- ・子をもつことにリスクがあるとすれば、時間や金銭的なこと。医療費などもかかるが税金で賄われている部分もある。「子が欲しい」という思いがあるのならリスクだけでもないのでは。
- ・少子化には、ジェンダーよりも、お金がより関係しているのではないか。お金がやはり不安要素。
- ・自分のしたいことを優先したい人も実際増えている。
- ・自分は早くに子どもを産みたいという思いがあるが、社会人になってすぐに妊娠して仕事を休むのも不安。

- ・リスクもやはりある。愛おしいと思う感性は大切だが、「自分の今」を考えると・・・

【齊藤先生より】

- ・少子化とジェンダーは関係があると思っている。
「自分らしい生き方」と「生殖、命のつながり」ということを、今後どのように考えていけるか。
- ・「男になりたいわけではないが、月経が来るのがいやでいやで・・・この気持ち、どうしたら・・・」産まない、産めない選択をする人たちもいる。(自分らしい生き方)
- ・自分らしい生き方のことを思うと、生殖、命のつながりは、「産むものだ」というある種“日本的なもの”によって保たれてきただけと考えることもできるかもしれない。

- ただ、愛し合うことで子が産まれる土壌がつくられるということは、これはそう言える（分泌物等の関係）。
- 対等な人間関係、何でも話し合いができる・・・シンプルにそういう関係、そういう状況、そういうタイミング・・・で、子は授かるもの。
- 男性育休に関しては、「昔は男は仕事さえしていればよかった」「今はこんな休み取らされて、こんなことを求められて」と言う人もいる。でも、その“こんなこと”を女性はずっとやってきた。
- 今の子どもはゲームばかり。他のことは「だるい」「やんない」「めんどくさい」。大人も「がんばらなくていい」「行かなくていい」。結果、子どもはやりたい放題。子どもの健康状況にも不安がつきまとい、今の社会状況を考えると、今子育てをすることにはやはりリスクが多いと思う。“成長の喜び”を感じられる環境を再構築していかないと・・・

感想

- ・出産についての知識を身につけることができたし、少子化問題についても考えることができよかった。
- ・齊藤さんのお話に引き込まれ、よい時間を過ごすことができた。
- ・今日のお話を聞いて、子どもがうまれるのは改めて奇跡だと思った。
- ・「愛しい」や「尊い」と思える感性がとても大切であると感じた。今こうしている瞬間も“奇跡”のおかげということをお忘れず、生きていきたいと思う。
- ・妊娠、出産や、社会の現状について理解を深めることができ、とても有意義な時間になりました。

感想

- ・命の誕生について、今まで知らなかったことの連続で驚きが多かった。今の社会状況や、現行のさまざまな政策のもとで子を産むことのリスクについても、真剣に考えることができた。
- ・「尊い」と思える感性の大切さや、命の誕生の奇跡を実感したとともに、新しく知れた知識もあり有意義な時間になりました。

